

おわりに

この 10 年間に我孫子市五本松公園で観察できた種類は 133 種類 (未詳種含む)、会報 29 号で報告した柏市増尾城址公園の 226 種類、会報 32 号で報告した柏市手賀の丘公園の 256 種類と比べると半分程度にとどまりました。理由には、増尾城址公園が 85 回、手賀の丘公園が 90 回の観察回数だったのに対し、五本松公園は 36 回と少なかった事、増尾城址公園の 8.4 ヘクタール、手賀の丘公園の 29.6 ヘクタールに比べ五本松公園の面積は 4.8 ヘクタールと狭い事、伐採木の集積場がなく冬場の材上生きのこの観察に不向きな事などが挙げられます。森林公園としての自然度は三者とも似たようなものなので、もっと熱心に通い、もっと心を込めて観察すれば、少なくとも 200 種類のきのこには出合えるでしょう。

ひとり観察会に近場の公園に出かけて、色々なきのこに出会い、ニセやモドキやバカ

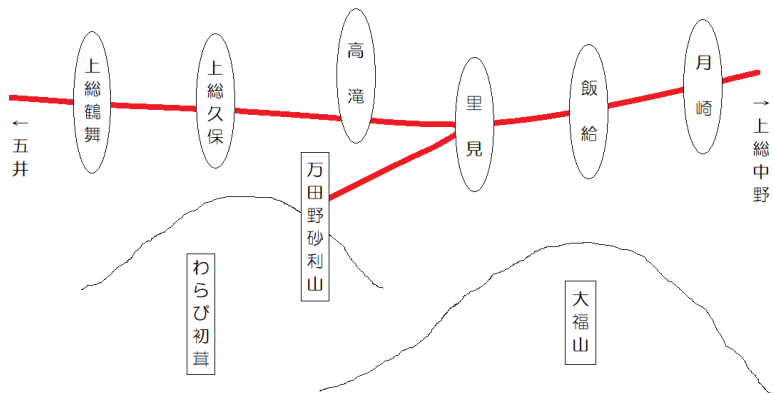
が付くややこしくて長ったらしい名前を記憶から捻出したり、図鑑で調べたりすることはボケ防止に最適です。それと、図鑑購入費用位でお金は余りかからないし、起伏の多いフィールド歩きで足腰は鍛えられるし、暇は有り余るほどあるけれどお金がない年金暮らしの老人の道楽としては最高の部類に入るものと考えられます。更に、鑑定に精通してくれば、一級の可食菌を只で獲得できる幸運にも恵まれるし、縄文時代人の狩猟採集生活の気分だって味わえます。但し、徘徊老人の一人歩きと間違えられないように、カメラや三脚、帽子、防虫ネット、長靴、腰籠などで重武装する必要があります。

この楽しみを長く続けるために、来年は新しい定点観察場所を開拓しようと思っています。千葉菌会員の皆様、お薦めの場所があれば、ご教示のほど、よろしく願いいたします。

□

房総きのこ今昔 — 砂利山で採れたハツタケ —

千葉県中部は山砂採取で有名であるが、かつて小湊鉄道の里見駅からは砂利運搬のための鉄道、里見砂利山線 (万田野線) が敷かれていた。ちょうどそのあたりは万田野層という良質の砂礫層があるそうだが、同鉄道の昭和 30 年ごろのパンフレットに描かれた鳥瞰図には、その採取地である万田野砂利山に「わらび初茸」と書かれている。ワラビは日当たりのよい場所を好み、ハツタケはマツと共生するきのこで、マツは尾根や切り開いたばかりの貧栄養な場所に先駆して生える陽樹である。砂利山はこれらの快適な棲み処だったのだろう。鉄道での砂利輸送は昭和 38 年に廃止されたそうだが、現在も近隣では山砂採取がおこなわれている。しかしかつての周辺は樹木や竹が生茂りマツは少なく、観光案内にあるほどワラビやハツタケが発生する環境ではなくなってしまった。(吹春公子)



※ 当時のパンフレットをもとに作成